

2020年5月3日 説教要約

説教「わたしは主イエス・キリストを信じます」

(ヨハネ福音書 14章6～14節)

今、私たちは5月の美しい時を過ごしていますが、同時に試練と困難の内に過ごしています。新型コロナウイルスによって人類は、試練の時を耐え忍びつつ過ごしています。

今日は、このような試練と困難な時をどう生きていったらいいのか、その答えを聖書の信仰に求め、特に今日は、使徒信条にある「我らは、その独り子、我らの主イエス・キリストを信ず」と言う信仰を学んで参りたいと思います。

今日の聖書の箇所は、ヨハネ福音書14章6～14節です。

まず冒頭の14章6節に「わたしは道であり、真理であり、命である」とあります。イエス様は、神に至る道であり真理であり命である。同時にイエス様こそ私たちが目標とする道・真理・命である。これが、初代教会の人達の信仰であり、私たちの信仰です。

そして、14章7～11節においてイエス様は、こうおっしゃいます。「わたしを知れば、父なる神を知る」、「わたしを見れば父なる神を見たことになる」と。さらに、「わたしが父の内におり、父が私の内におられる」とおっしゃっています。つまり、「わたしと父なる神は切り離すことはできない。一つである」とおっしゃっています。

これは、イエス様ご自身の言葉と言うよりも、初代教会の人達の信仰告白であると言っていいでしょう。イエス様は父なる神と一つであり、神であると信じていたのです。では、なぜ、人々は「イエス様を神である」と信じたのでしょうか。

それは、イエス様のすばらしい教えを聞いてそう思った人もいるでしょう。また、イエス様がなされる奇跡を見てそう思った人もいるでしょう。

しかし、人々は、何よりもイエス様の十字架と復活の出来事を通して、そう信じたのでした。それは、イエス様が十字架上で息を引き取られた時のローマの百人隊長の言葉、「本当にこの人は神の子だった」(マルコ15章39節)、あるいは、復活の主イエスに出会った時の弟子のトマスの言葉「わが主、わが神よ」(ヨハネ20章28節)に見ることができます。初代教会の人々は、十字架と復活の出来事を通して主イエスは神だと信じたのです。

もちろん、「イエス様を救い主だと信じられても、イエス様を神様だとは信じられない」という

人達もいます。

「イエスは神か人か」という議論は、古くからあり、現在まで続いています。その論争は、特に325年に開催されたニケーア会議で議論され、最終的に「イエスは、真の人であり真の神である」という結論が出され、このことによって父なる神・子なる神イエス・聖霊なる神は一つである、と言う三位一体説が確立することになりました。これがキリスト教の信仰と言っていいでしょう。

そのことを、ここではイエス様ご自身が弟子たちに告げておられるのです。そして、さらに、イエス様は「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」と約束されています。

それは使徒言行録を読んでも、また、20世紀を代表するクリスチャン、キング牧師やマザー・テレサを見ても分かります。

そしてさらに、イエス様は「私の名によって願うことは何でもかなえてあげよう」と約束されました。愛と憐みの神であり、全能の神であるイエス様は、私たちの思いと願いを深く知り、それが神の御心にかなったものであれば、それを必ずかなえてくださるのです。ここに、私たちの生きていく希望があると言っていいでしょう。

2020年5月3日説教抄(説教本文から)

「もちろん、イエス様に願ったことは何でもかなえられるのかと言えば、それは、やはり、正しいこと、イエス様の御心に適ったことと言うことになるでしょう。

憎いあの人を懲らしめてくださいとか、たくさんお金儲けができますように、と言った、人間の感情と欲望による自分勝手な願いをイエス様に願っても、イエス様が必ずかなえてくださると考えてはならないでしょう。

しかし、イエス様は、私たちの心の中にある叫びや願い、祈りを良く知っておられる憐み深い愛の方である。私達の心からの切実な叫びや願いであれば、そして、それが神様の御心にかなうことであれば、イエス様は、必ず、その願いをかなえてくださるはずです。父なる神様は、その愛するわが子である私たちの願いを聴かないはずがない。それと同じように、

イエス様が愛する私たちの願いを聴かないはずはない。必ず、私たちの願いを聴き、それをかなえてくださる。イエス様はそう、おっしゃるのです。

もちろん、その願いがかなえられるまでには時が必要です。時間が必要な場合があります。また、どのような形でかなえてくださるかは私たちにはわかりません。願い通りにかなえてくださることもあれば、願いに反する形でかなえられることもあります。また、願いを聴いて下さらないという形で聴いてくださることもあります。

しかし、いずれにしても、イエス様は、私たちの願いをいつも聴いてくださっておられるし、その願いを最善の時に、最善の形で適えてくださる。イエス様とは、そのような愛の神であり、全能の神である。そのことを私たちは信じるのがゆるされているのです。

今、私たち人類は、大きな試練に直面しています。私達一人一人もそれぞれ苦しい所に立たされています。しかし、これまで数多くの試練に直面してきた信仰の先輩達、そして、教会は、初代教会以来の信仰、「我は、その独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず」という信仰、「主イエスは、真の人にして、真の神である」という確かな信仰によって数多くの試練・困難を乗り越えてきました。

イエス・キリストを神と信じる信仰によって、クリスチャンは守られてきた、支えられてきた。また、イエス様は私たちの願いと祈りを必ず聴いてくださる、かなえてくださる。この信仰によって人々は希望をもって力強く歩んできました。そして、何よりも主なる神・救い主なる神・主イエスキリストの深き愛と憐れみによって、歩んで来ることができたのです。

私達は、この信仰を継承し、その信仰によって日々、生かされ、さらに、この信仰を後の世代に伝え、この地にあつてますます福音を宣べ伝え、愛をもって世の人に仕えて参りたい。そう思うのです。」